

# 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果について I 正答数分布

## 学力調査結果の公表の考え方

義務教育の目的は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことにある。本市における、この義務教育の目的の学力面での達成状況を明らかにするため、学力調査の結果に基づき、(1)基礎的な学力の定着状況と、(2)児童・生徒の一人一人の学力の伸長の度合いを市全体及び学校ごとにまとめ公表する。また、この調査結果を、今後の教育活動の一層の改善・充実を図っていくための基礎資料とする。

### ◆現状・課題

#### 【概要】

○小・中共に国語 A と算数・数学 A は、正答数の多い層が厚く、国語 B と算数・数学 B は幅広く分布している。  
 ○平均正答率は、小・中共に国語 B で全国平均を上回り、国語 A、算数・数学 A・B、理科で全国平均を下回った。  
 ○平均正答数(全国)未達の割合は、小学校では、理科で全国平均より 4.4 ポイント多かった。中学校では、国語 B で全国平均より 3.4 ポイント少なかった。

#### 【各教科の課題】

《小学校国語》今年度は、「読む能力」に課題が見られた。「文の中で漢字を正しく使う」は 5 問共平均を下回り、昨年同様漢字に課題が見られた。しかし、昨年度課題であった「書く能力」は改善している。

《小学校算数》昨年度同様算数 B (活用) が全国平均を下回る問題が多く、「数学的な考え方」に課題が見られる。また、今年度は「数量や図形についての知識・理解」にも課題が見られた。

《小学校理科》すべての観点において全国平均を下回っている。特に「自然事象についての知識・理解」に課題が見られた。

《中学校国語》昨年度よりも全国平均を下回る問題が減少しているが、引き続き「書く能力」と「言語についての知識・理解・技能」に課題が見られた。

《中学校数学》昨年度よりも全国平均を下回る問題が増えている。特に、「数学的な見方や考え方」、「数学的な技能」に課題が見られた。

《中学校理科》知識に関する問題よりも活用に関する問題に課題が見られた。観点別では、「科学的な思考・表現」、「観察・実験の技能」に課題が見られた。

### ◆平均正答率(%)

教科	本市	全国	東京都	
小学校	国語 A (知識)	69	70.7	74
	国語 B (活用)	55	54.7	57
	算数 A (知識)	63	63.5	67
	算数 B (活用)	51	51.5	55
理科	58	60.3	62	

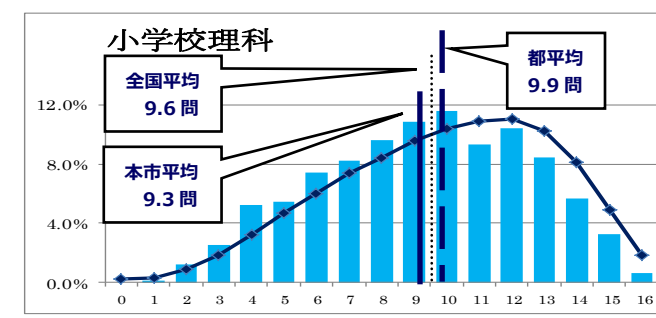
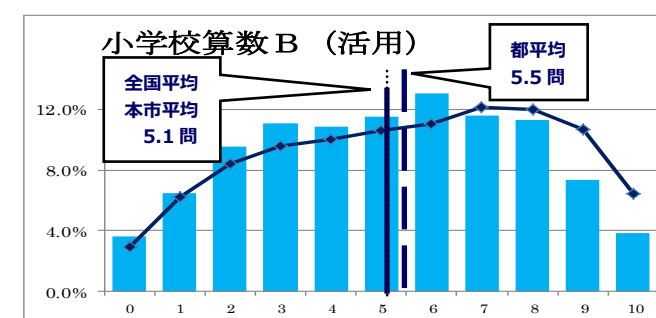
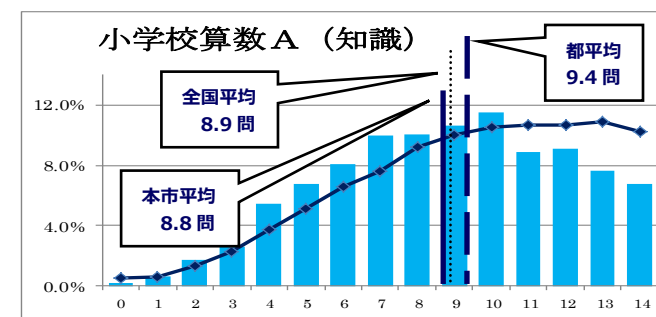
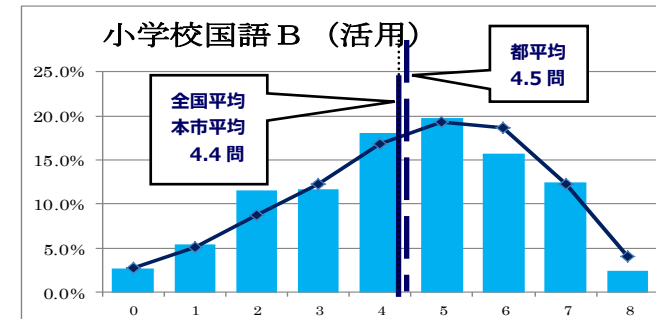
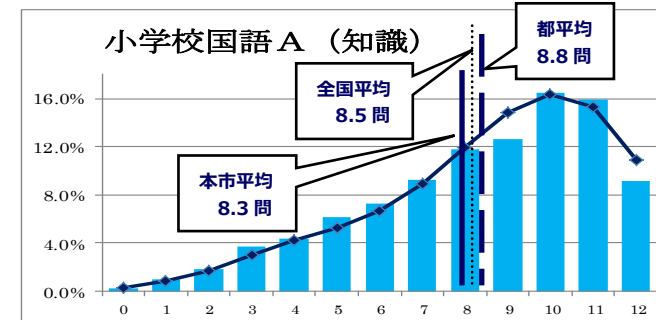
教科	本市	全国	東京都	
中学校	国語 A (知識)	76	76.1	77
	国語 B (活用)	62	61.2	63
	数学 A (知識)	66	66.1	67
	数学 B (活用)	46	46.9	49
理科	66	66.1	65	

### ◆平均正答数(全国)未達の児童・生徒の割合(%)

教科	本市	全国	東京都	
小学校	国語 A (知識)	45.7	42.8	36.9
	国語 B (活用)	49.5	49.4	45.7
	算数 A (知識)	45.6	43.5	36.9
	算数 B (活用)	53.0	53.3	47.7
理科	50.6	46.2	42.5	

教科	本市	全国	東京都	
中学校	国語 A (知識)	40.1	41.0	38.8
	国語 B (活用)	41.7	45.1	40.5
	数学 A (知識)	42.6	43.1	41.1
	数学 B (活用)	49.3	50.0	46.4
理科	41.6	42.7	43.5	

### ◆正答数分布



調査対象学年：小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年  
 棒グラフ：東久留米市、折れ線グラフ：東京都  
 縦軸：児童・生徒数の割合(%)、横軸：正答数(問)

